

対馬にいる生き物をご紹介します！

第21回

オオワシ
学名 *Haliaeetus pelagicus pelagicus*

オオワシは国の天然記念物に指定されている世界最大級のワシで、白黒の体色と大きなオレンジ色のくちばしが特徴です。主に北海道で冬を越しますが、少数は対馬にも渡ってきます。

大きな体は豪快な狩りを想像させますが、実際は魚の死骸を食べたり、他の鳥の獲物を奪ったりしています。そのため対馬ではマグロ養殖の餌を利用する姿が見られるようです。

近年は鉛中毒や列車との衝突事故などで数が減っていますが今も対馬に姿を見せるのは豊かな自然が守られている証です。

もし出会えたら、静かに観察してみてください。



とらやまの森
No 101

2026
冬号



★「とらやまの森」の記事を引用される際には、出典が「とらやまの森」であることを明記して下さい。



今回の対馬のあの人この人は

対馬博物館 学芸員 谷尾 崇さん

たにお たかし

どんな仕事をしていますか？

対馬博物館で自然史を担当する学芸員として働いています。日々、標本の管理や展示を通じて島の豊かな自然を来館者に伝えています。標本を収蔵していない種類は、自ら野外で採集し、標本作製することもあります。さらに、対馬で減少傾向にある生き物について調査を行い、周辺環境を踏まえてその現状を把握する研究も続けています。



ツシマヤマネコについてどう思いますか？

島の象徴ともいえるツシマヤマネコは、「対馬を知らない人に島を知ってもらう足掛かりになる存在」だと考えています。その保全にあたっては、ヤマネコだけに焦点を当てるのではなく島全体の生態系を守ることが不可欠です。私は他の生き物も含めて、生息環境を保全していきたいと考えています。

おすすめの生き物はなんですか？

クロツバメシジミ ▶
(出典：対馬博物館)

おすすめの生き物はクロツバメシジミです。この蝶は日本国内では減少している蝶ですが、対馬では比較的よく見られます。

翅の斑紋は、地域差があるだけでなく、幼虫期に食べた植物によっても変化するという、非常にユニークな特徴を持っています。このような性質を示す蝶は数少なく、身近にも見られるクロツバメシジミの存在は昆虫の多様性の奥深さを物語っています。



対馬博物館 厳原町今屋敷668-2 TEL:0920-53-5100 開館時間:9:30-17:00(入館は16:30まで) 休館日:毎週木曜日

開館時間と休館日のお知らせ

【開館時間】10:00～16:30(入館は16:00まで)

【休館日】月・火曜日・年末年始(祝日を除く)

2026年1月15日 対馬野生生物保護センター
広報誌101号 〒817-1603 対馬市上県町佐護棹崎公園内
TEL:0920-84-5577
Mail:RO-TSUSHIMA@env.go.jp

とらやまの森

2026 冬号
No.101



美津島町洲藻で保護されたツシマヤマネコ「龍馬」
りょうま

下島における交通事故 短期間に2件発生

1件目は9月11日美津島町洲藻にて道路わきでうずくまっているヤマネコを保護しました。検査の結果、骨盤に骨折が見られたため交通事故にあったと推測されました。下島での交通事故個体の救護は初です。

2件目は10月21日朝7時半に美津島町久須保の国道上でヤマネコが轢かれていたと通報がありました。職員が確認したところ、今年生まれのヤマネコで、後ろ足が欠損しており、生前にくくり罠により誤って捕獲され負傷した可能性が考えられています。**狩猟者の皆様はこまめな見回りをよろしくお願いいたします。**

下島のヤマネコの数は依然として上島より少ないものの、目撃情報や生息確認地域は増えており着々と個体数を回復させています。みなさまのご協力もあり喜ばしいことではありますが、これからさらに交通事故が増える可能性が高いため、運転の際にはヤマネコ及び野生動物にご注意ください。

ヤマネコ通報対応中



ヤマネコは耳の後ろに白い斑があります

対馬野生生物保護センター

0920-84-5577 (24時間対応)

ツシマヤマネコ野生順化ステーション

0920-57-0101 (平日 8:30～17:15)



下島でツシマヤマネコの幼獣の撮影成功!!

下島で嬉しいニュースです！
2025年6月、下島の南部(厳原町豆酸)に設置した自動撮影カメラでヤマネコの幼獣が撮影されました。兄弟と思われる2頭の仔猫の写真の直前には、母ネコと思われる成獣が撮影されていました。



対馬では1960年代頃まで全島的にヤマネコが生息していたとされますが、その後、下島では生息確認が途絶え、2007年に23年ぶりに確認されました。それ以降、成獣や亜成獣の確認は続きましたが、幼獣については2023年に下島の北部で撮影された1件のみでした。

今回、下島の南部で幼獣が確認されたことにより、上島から地理的に離れた下島の南部でも確実に繁殖していることが明らかになりました！

Mn-115「くめはち」の追跡調査

現在対馬野生生物保護センターでは保護したヤマネコの放獣後の追跡調査を実施中です。この個体は令和6年11月に保護されたオスの亜成獣(1歳未満で成獣と幼獣の中間くらいの若い個体)で、外傷などは見られませんでした。保護時若干の貧血がみられ、体重が970gと痩せていたため、センターで療養したのち放獣しました。

職員によって「くめはち」と名付けられたこの個体は、放獣時の令和7年6月には3,300gと立派に成長し、保護された付近で放されました。

「くめはち」の首輪に発信機を取り付け追跡をしたところ、放獣地点の上県町佐護から大きく北東へ移動し、およそ一か月後には上対馬町豊まで移動していました。途中2度の検査捕獲を実施し体重測定や血液検査で異常がないことを確認し、最近では赤丸に示したエリアを好んでいるようでした。今後については、「くめはち」の栄養状態を考慮して検討中です。



「No.103したる」と「No.112ジミー」、動物園に旅立つ



2025年-2026年の繁殖シーズンに向けて、センターで飼育中の「No.103したる」が名古屋市東山動植物園に、ステーションで飼育中の「Ma-117 (No.112) ジミー」が福岡市動物園に、2025年12月に移動しました。



「したる」は東山動植物園で生まれた個体で、約2年振りに里帰りしたことになります。「ジミー」は昨年3月に上対馬町芦見でシカ・イノシシ用の「くくりわな」で誤って捕獲された個体です。治療のため左前肢を断脚する必要があり、3本足になってしまいました。「ジミー」は野生下で生き残ることが難しいと判断したため、動物園で繁殖に参加することになりました。

2頭ともそれぞれの動物園で繁殖に成功することを期待しています！！

～お知らせ～

①今年度もツシマヤマネコ交通安全ポスター展開催中です

このポスター展は、ツシマヤマネコの交通事故を少しでも減らすため、2012年から続けている活動です。今年度のテーマは「やまねこに優しい運転を」で、135作品もの応募がありました。皆様の思いが込められた力作ぞろいです。

2026年1月23日まで上対馬総合センターで展示していますのでご興味ございましたらぜひお越しください。

最優秀賞作品



一般の部
武末 剛志 さん



小中学生の部
豆酸中学校 3年
栗原 星花 さん

②ツシマヤマネコ交通事故防止街頭キャンペーン実施



ヤマネコの交通事故が発生した場所の近くでボランティアの方と夕方ごろに道路横から安全運転の呼びかけを行っています。30分ほどのキャンペーンではありますが多くの運転者にアピールすることができました。

◀11月16日に万関橋周辺で行ったキャンペーンの様子

